

2008 年度夏季現地研究会「世界遺産知床の今を考える」(8月25~27日)の報告  
伊藤達也(法政大学)

水資源・環境学会の2008年度夏季現地研究会は8月25日から27日にかけての知床ツアーでした。幸いにも天候に恵まれ、夏の知床を満喫すると共に、世界自然遺産である知床の海と森について深く考えることのできるイベントになったと思います。以下で簡単に内容の報告をさせていただきます。

8/25(月)

女満別空港は網走湖の南に広がる台地の上にあります。飛行機が空港に降りるラインにサロマ湖、網走湖が広がり、湖の周りは畑、牧草地が広がっています。飛行機の中からすでに夏の北海道は始まっていました。関西空港からやってくる主力組を待ちつつ、早速、お昼ご飯から北海道の幸を満喫しました。

今回の現地研究会の参加者は総勢14名。毎年、夏の研究会の参加者は10名前後ですので、普段よりも少し参加者は多かったと言えます。女満別空港で参加者全員が無事集合し(フェリーに自家用車を積み込んで北海道上陸を企んだ学会事務局グループは夕方ホテル集合でした)、車2台に分乗して研究会のスタートです。

女満別空港から最初に向かったのは能取岬です。車は網走湖を横目に眺め、能取湖の湖岸を気持ちよく走り、オホーツク海にちょっと突き出た能取岬は白と黒のまだら模様のかわいい灯台(写真1)と、ふりむけば牧場?牛や馬の群れが迎えてくれます(写真2)。家族連れを中心にちょっとした賑わいのある観光地になっていました。

北海道に行くといつも間違えるのが「距離感」です。必ず実距離よりも短めに計算してしまいます。その結果、「地図で見ればすぐじゃない」と誰もが思うところ、実は120kmくらいの距離にあり、ひたすら車で走り続けると予定時間に遅れてしまうこととなります(図1)。今回の研究会も初日からこのような経験をするこ



写真1 能取灯台と学会員の秋山さん



写真2 能取岬と牛・馬

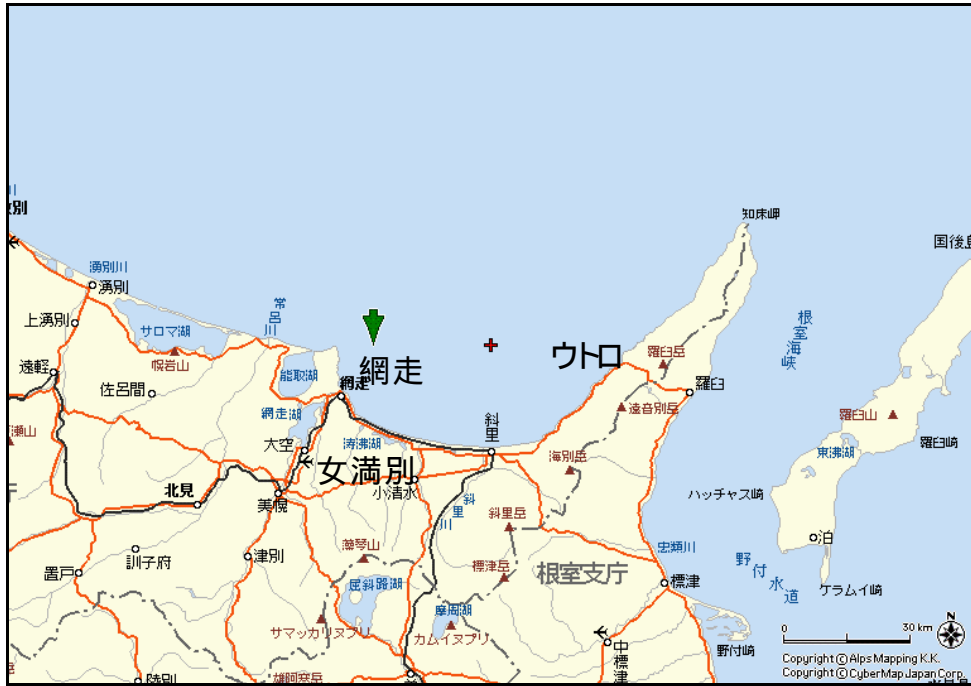


図1 現地研究会の場所（女満別・網走・ウトロ）

になりました。運転していただいた方々、本当に感謝しています。能取岬から知床半島ウトロ（ホテル所在地）まで2時間強、ひたすら走り続けることとなりました。ただどり着いたホテルではゆっくりと食事、ゆったりと温泉、そして夜更けまでカラオケに興じた方々、十分楽しめたかと思えます。

8/26（火）

2日目は知床クルージングです。今回の現地研究の目玉と言ってもよいでしょう。知床の夏は短く、しかも知床半島の先端の知床岬まで行くためには船に乗らなければなりません。朝9時30分、予約していたホワイトリリー旭川観光船事業部ドルフィンに向かい、10時乗船、約3時間に及ぶ船旅を楽しみました（写真3、4）。知床半島の海岸は複雑です。船に揺られている間、次々と現れる海岸線の多様さに参加者一同、結構はしゃいでいたのですが、さすがに知床岬からの帰りの船はみなさんかなり飽きてきた、疲れてきたようでした。お疲れ様でした。

下船した後はゆっくりと昼食を楽しみ、午後の行先である知床自然センターに立ち寄り、フレベの滝までの散策の時間となりました。途中、エゾシカとたわむれ、「さあ、これから網走へ行くぞ」と車を出発させようとした時、「知床五湖に行きたい」と強い要望が出され、時間がないのでカットしようとしていたコーディネーターの願いは見事に碎かれ、足早に知床五湖の一湖に立ち寄ることになりました。さらに網走に行く途中だからということで、オシンコシンの滝にも急ぎょ立ち寄り、やはり本学会は水



写真3 知床半島の山々



写真4 知床岬遠望

から離れることはできない、カットしようとした私が間違っていたと思った次第です。ちなみにオシンコシンの滝は日本の滝 100 選にも選ばれている名瀑であり、なかなかよかったです。「ちょっとだけ行こうよ」と強く勧めていただいたNさん、改めて感謝です。

さて、オシンコシンの滝見学を無事終え、網走に向かって走り出すと間もなく名古屋水道労組幹部K氏の御子息から携帯に電話があり、「さてさて何のことだろ」と思いつながりながら話すと、「網走の夕食を案内したい」という、何ともありがたい話。そう言えば、だいぶ前にK氏から御子息が北海道新聞網走支局に転勤されたことを聞き、「よければ電話して」と言ったことを、電話をもらって思い出す始末でした。網走で知らない人はいない（ホテルのフロントで聞いたらそう言ってました）お寿司屋さんを紹介してもらい、感謝感謝です。

8/27（水）

今回の研究会もあっという間に時間が過ぎ、最終日となってしまいました。午後には参加者の皆さんそれぞれ帰途につかねばならないことから、無理はできず、網走市内の観光に徹しました。まず最初に網走刑務所に行き、なぜか記念写真を撮りまくり、次に向かったのが昔の網走監獄の建物を移転して公開している博物館・網走監獄です。これがなかなかスマッシュヒットで、約 1 時間の案内をしてもらい、網走監獄の凄みを十分堪能しました。なかなかお勧めです。

そして昼食を兼ねて立ち寄ったのがオホーツク流氷館です。確か小雨が降っていました。網走の市街地を見下ろす天都山山頂にある流氷をテーマにした科学館で、メインは本物の流氷を展示するマイナス18度の流氷体験室です。みなさん、濡れたタオルを渡され、体験室の中でグルグルタオルを回しながら、それが凍っていくのを実体験

した次第です。私はかなり前からお会いしたかったクリオネと無事対面を果たし、また、とってもかわいいフウセンウオに魅入ってしまいました。フウセンウオにはちょっとはまってしまい、今、私の携帯の待ち受け画面です（写真5）。

オホーツク流氷館でゆっくりとした昼食をいただき、充実したお土産やさんを満喫したところで、持ち時間がなくなりました。時間に遅れることなく、参加者の皆さんが無事に帰路につけるよう、女満別空港へ向かい、それぞれの飛行機に乗り込んだ次第です。

全日程が無事終了し、しかも、2日目の知床クルージングは天候にも恵まれ、なによりでした。実は今一番記憶に残っているのは知床の海ではなく、2日目、ひたすら夕闇の中を網走に向かって走っているときに車窓に広がっていた北海道の空です。とにかく広い。そして雲の動き、夕暮れの薄明りが何とも言えず素晴らしい。一年の最もいい季節に1日や2日来ただけで「ここはいいところだ」と言うつもりはありません。でも、ここにも多くの人々が住んでおり、こんな大きな空の下で暮らしている。経済状況からすれば決して良好とは言えない道東にこれからも人が住み続けられるような社会システム、経済システムってないだろうか。ずっとそのことを考えていました。

以上、2008年夏季現地研究会の報告でした。2009年の夏は韓国に行きます。学会としては10年ぶりの韓国です。皆さん、ご期待ください。

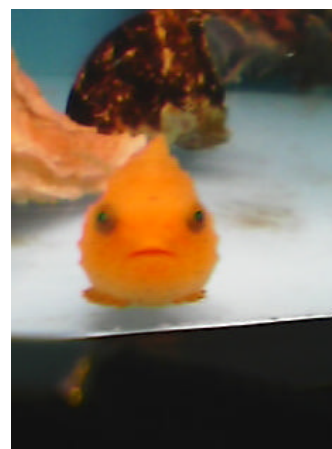


写真5 フウセンウオ